

第5章 津久見市の文化財の把握状況と保存・活用に関する課題・方針

第1節 文化財に関する既往の把握調査と把握状況

本市は、これまで津久見市文化財調査委員会が中心になって津久見市文化財実態調査（昭和53年度（1978））を開始し、引き続き並行して市誌編さんに係る調査（昭和54～59年度（1979～1984））、さらに巨樹・巨木林フォローアップ調査（平成12年度（2000））や、歴史文化等の地域資源の掘り起こしのため平成27年度（2015）から地域資源発掘調査として独自に進める等、市内全域を対象とした総合的な把握調査を継続的に実施し、多くの情報を蓄積してきた。

（1）大分県による把握調査等

大分県は昭和28年度（1953）から『大分県文化財報告書』等を刊行しており、本市で把握調査等を行う際も、県から発行された報告書を数多く活用してきた。

活用した主な資料は下表のとおりである。

表10 津久見市関係の大分県調査報告書一覧

書籍名	編著者	刊行年
『大分県の民謡』	大分県教育委員会	1985
『歴史の道調査報告書 臼杵城路』	大分県教育委員会	1986
『近世社寺建築緊急調査報告書 大分県の近世社寺建築』	大分県教育委員会	1987
『大分県の文化財』	大分県教育委員会	1991
『大分県の近代化遺産－近代化遺産総合調査報告』	大分県教育委員会	1994
『大分の中世城館』第1集～第4集	大分県教育委員会	2002 ～2004
『大分県の天然記念物（地質鉱物）天然記念物緊急調査報告書』	大分県教育委員会	2010
『大分県の近代和風建築 一 大分県近代和風建築総合調査報告書一』	大分県教育委員会	2013
『大分県の諸職 大分県諸職関係民俗文化財調査報告書第5集』	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	1987
『大分県の祭礼行事 大分県祭礼行事民俗調査報告書』	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	1995
『大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書第3集 津久見門前遺跡 瀬戸遺跡 佐伯門前遺跡』	大分県教育庁埋蔵文化財センター	2005
『西南戦争戦跡分布調査報告書』	大分県教育庁埋蔵文化財センター	2009
『大分の中世石造遺物』第1集～第5集、第5集別冊	大分県教育庁埋蔵文化財センター	2013 ～2017
『大分県立埋蔵文化財センター調査報告書第12集 志手町遺跡』	大分県立埋蔵文化財センター	2020
『収蔵史料目録3』	大分県立先哲史料館	2005
『大分県の天然記念物（地質鉱物）天然記念物緊急調査（地質鉱物）報告書 増補改訂版』	大分県生活環境部	2021

(2) 文化財の現況把握調査

地域計画を作成するにあたり、指定等文化財と未指定文化財の現況把握調査を実施した。

本市は、前述のとおり継続的に総合調査を実施してきた経緯から、地域計画作成に際してはその補完調査として、令和5年(2023)7月から令和6年(2024)6月までの1年間で実施した。現地調査員(文化財調査委員会委員、郷土史研究者)6名を中心に文化財専門員も加わり現況把握のための調査を実施した。

調査区は、明治時代の旧町村を基本とし、現在設置されている行政区30区を津久見地域・青江地域・下浦地域・日代地域・四浦地域・保戸島地域の6地域に設定し、それぞれの地域に所在する文化財について、過去の調査記録から作成した所在リストをもとに、区長をはじめ地域の事情に詳しい地元の方に協力いただきながら現地確認を行った。

実施した調査件数は、6地域合わせると801件になり、各地域ともに特徴ある文化財が残っていることが確認できた。

調査件数と主な内容は、以下のとおりである。

津久見地域 272件

千怒鍛冶屋石幢・同鍛冶屋塔ノ本宝篋印塔、大友氏別館跡ほか、宮本赤八幡神社豊明殿・神楽殿、彦ノ内寺屋敷跡石塔群、中田衛門三郎之碑・拝高天満社周辺ヤブツバキ群、西ノ内誠心寺観音像等

青江地域 238件

警固屋井無田周辺の石塔群、田平五輪塔群、川上門前石灰焼き発祥の地跡、川内辯治谷^{べんじだに}五輪塔群、畑村上神社周辺の石塔群等

下浦地域 123件

徳浦御寅御前の墓・徳浦神社獅子舞、堅浦海岸寺境内の文化財群、長目浦代観音堂五輪塔群、長目地区みかん小屋、楠屋蛇紋岩採掘場跡、無垢島の二枚貝化石等

日代地域 56件

日見天満社境内社及び周辺の巨木林、網代島チャートほか、佐伯藩御茶屋跡、網代幸月寺跡五輪塔群、赤崎天満社境内社等

四浦地域 81件

四浦半島の浦々に残るえびす像、久保泊城跡、落ノ浦権現洞窟及び周辺文化財群、間元の砂岩岩脈、高浜海岸の褶曲等

保戸島地域 31件

海徳寺石幢、景行天皇の腰掛石、保戸島盆踊り・精霊流し等盆行事、遠見山旧海軍防空監視所跡等

今回の調査で、新たに多くの未指定文化財を確認することができた。特に、南部四国八十八か所札所、庚申塔やその他記念碑等の石造物、巨樹・巨木林の分布、民俗芸能の存続状況等は、所在地域での聞き取りによって、その概要が把握できた。

(3) アンケートによる調査状況

地域計画を作成するにあたり、令和6年度（2024）に市民を対象にアンケート調査を実施した。ここでは、その調査結果の概要について報告する。

名 称	津久見市の文化財の保存・活用に関するアンケート
目 的	①文化財に対する市民の意識調査による課題の把握 ②総合的な文化財リストの作成に向けた未指定を含む文化財の状況確認
期 間	令和6年（2024）5月31日～7月2日
対 象	津久見市民1,000人 中学3年生以上の市内在住者1,000人を無作為抽出
回答数	225人（回答率 22.5%）

目的①に設定した意識調査による課題の把握では、「文化財を地域のまちづくり等に活用していくためのアイデア」や「文化財の保存・活用等についての意見・要望」についての問いに対して、SNS等を含めた文化財の情報発信やイベントの開催、学習機会の提供、学校教育との連携等を行うことで、本市の文化財を知る機会を増やし、津久見の魅力を発信してほしいとの意見があった。

一方、「津久見の歴史や文化財を知らない」、「文化財を知る機会がない」という回答も複数見られた。これらのことから、文化財について学ぶ機会の提供や文化財の情報発信等に課題があり、本市の文化財の価値や魅力を共有するための取組を行う必要があることが分かった。

目的②に設定した未指定を含む文化財の状況確認では、市民が思う「津久見らしい」文化財や、地域で大切にされている文化財を中心に確認を行った。具体的な設問として、「地域で大切にされている文化財や、将来に残したいと思う文化財」を尋ねたところ、回答者は58人とどまった。指定等文化財に加えて未指定の無形の民俗文化財、植物、神社等が多く挙げられた。地域の祭りや民俗芸能、自然、神社は市民にとって身近な文化財であることが分かる。

また、あなたが思う「津久見らしい」文化財に関する問いでは、回答者の10代から80代以上のいずれの年代でも「地域に伝わる祭りや芸能」が最も多く、回答者全体の約50%が選択した。「文化財の保存や活用について、市が力を入れるべきもの」の設問でも同様に、いずれの年代でも「地域の祭りや伝統芸能の継承」が最も多かった。このことから、地域の祭りや民俗芸能を継承していくことの重要性を、全ての世代が認識していることが分かる。

アンケートの設問内容と回答（一部抜粋）

問：あなたが思う「津久見らしい文化財」とは、何ですか。（複数回答可） **【必須】**

【選択肢と回答数】

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------|
| 1. 地域に伝わる祭りや芸能…………… 112 | 7. 仏像や彫刻・絵画…………… 8 |
| 2. 天然記念物
（樹木・動植物・化石・地質鉱物） ……62 | 8. 古文書や古絵図…………… 8 |
| 3. 神社や仏閣の建物・石造物……………41 | 9. 土木建造物（石橋・石垣・水路） ……7 |
| 4. 出来事（伝説、言い伝え、地名） ……30 | 10. 土器や石器、金属器などの出土品…………… 6 |
| 5. 史跡（城跡、戦跡）・名勝（奇岩） …… 28 | 11. 特にない……………60 |
| 6. 文化的な景観・伝統的な町並み……………23 | 12. その他（ ） ……10 |

問：文化財の保存や活用について、市が力を入れるべきものはどれだと思いますか。 **【必須】**

次の中から該当するものを三つまでお選びください。

【選択肢と回答数】

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| 1. 地域の祭りや伝統芸能の継承…………… 121 | 8. 文化財の防犯、防火、防災の取り組み……………26 |
| 2. 文化財を活用した観光……………52 | 9. 建物や仏像、美術品などの保存修理……………24 |
| 3. 文化財の情報発信の充実・強化……………50 | 10. 文化財の講座・催しの実施
（社会教育の充実） ……19 |
| 4. 学校教育と連携した郷土を学ぶ機会
の創出……………49 | 11. ガイド育成等の人材育成……………17 |
| 5. 文化財を活用したまちづくり……………32 | 12. 文化財を活用した健康づくり……………10 |
| 6. 史跡（城跡ほか）・名勝の整備…………… 27 | 13. その他（ ） ……14 |
| 7. 文化財に関わる収蔵・展示施設の充実…27 | |

問：あなたのお住まいの地域で大切にされている文化財や、将来に残したいと思う文化財は何ですか。

該当する種類の欄に、名称や場所等について分かる範囲でご記入ください。 **【任意】**

【回答】

アンケート結果を、未指定文化財の種別ごとに再分類して下記のとおり整理した。

種 別		回答数	回答のキーワード（一部抜粋）	
有形文化財	美術工芸品（絵画）	2	神社の天井絵	
	石造物	4	川内の石幢 ほか	
民俗文化財	有形の民俗文化財	6	地藏様 ほか	
	無形の民俗文化財	民俗芸能	26	扇子踊り、堅浦の棒術や長刀、獅子舞、御神楽、ジョウヤラ、堅浦霜月祭り、赤八幡神社の大祭、盆踊り ほか
		説話・伝説	2	
		歌謡	3	
		郷土食	4	
年中行事	1			
記念物	遺跡（その他）	2		
	名勝地（その他）	3		
	動物、植物、地質鉱物	13	ウバメガシ、アコウ、みかん ほか	
文化的景観		5	石灰石鉱山 ほか	
由緒地	神社	17	赤八幡神社 ほか	
その他		6	納涼花火大会 ほか	

(4) 本市における調査の実施状況

本市がこれまでに行ってきた類型別の文化財の調査状況は表11のとおりである。

表11 文化財の調査状況（地域別）

種別		津久見	青江	下浦	日代	四浦	保戸島	調査状況	
有形文化財	建造物	△	△	△	△	△	△	<ul style="list-style-type: none"> ・木造建築物は年代がはっきりしていないものが多い。 ・絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍、歴史資料の一部を除いては、市誌編さんに伴う調査のみである。 ・古文書については、県の記録史料所在調査でおおむね把握できている。 ・考古資料については、発掘調査の出土遺物以外の考古資料の把握は行っていない。 	
	美術	絵画	△	△	△	△	△		△
		彫刻	△	△	△	△	△		△
	工芸品	工芸品	△	△	△	△	△		△
		書跡・典籍	△	△	△	△	△		△
	古文書	古文書	△	△	△	△	△		△
		考古資料	△	△	△	△	△		△
		歴史資料	△	△	△	△	△		△
石造物	△	△	△	△	△	△	・石造物は市と県の所在調査によりおおむね把握できている。		
無形文化財		×	×	×	×	×	×	・把握調査は、ほとんど実施していない。	
民俗文化財	有形の民俗文化財	△	△	△	△	△	△	・おおまかな所在把握はできている。	
	無形の民俗文化財	△	△	△	△	△	△	<ul style="list-style-type: none"> ・市独自で実施した祭り・行事調査で民俗芸能はおおむね把握できている。 ・祭礼、食文化、年中行事、説話・伝説については、市誌や既存の資料でおおむね把握できている。 	
記念物	遺跡	△	△	△	△	△	△	<ul style="list-style-type: none"> ・県等の調査により、中世城館や主要街道についておおむね把握はできている。 ・市誌はじめ自然分野の調査報告書等でおおむね把握は可能である。 	
	名勝地	△	△	△	△	△	△	<ul style="list-style-type: none"> ・地質鉱物の分野においては、一部を除いておおむね把握できている。 ・動植物については、市誌等、自然分野の調査報告やレッドデータブック、出版物等でおおむね把握できる。 	
	動物、植物、地質鉱物	△	△	△	△	△	△		
文化的景観		△	△	△	△	△	△	・独自の調査で把握できている。	
伝統的建造物群		×	×	×	×	×	×	・把握調査は実施していない。	
文化財の保存技術		×	×	×	×	×	×	・把握調査は実施していない。	
埋蔵文化財		○	○	○	○	○	○	・県等の調査で周知遺跡としておおむね把握できている。	
由緒地	寺院	△	△	△	△	△	△	・おおむね把握できている。	
	神社	△	△	△	△	△	△	・それぞれに格付けされた神社はおおむね把握できている。	
	堂宇・小祠	△	△	△	△	△	△	・地域に所在する堂宇や小祠等、すべては把握していない。	

※○：おおむね調査済 △：調査途中 ×：未調査